平成７年９月定例会文化労働常任委員会　10 月 17 日

◆（鈴木和夫君）　公明の鈴木でございます。本当に長時間になりました。最後の質問でございますので、できるだけ簡便に質問したいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

私の方は、庶民文化の振興という一点だけお尋ね申し上げたいと思います。

知事は、昭和三十一年に宝塚の新芸座に入団されまして、しばらくされて吉本興業に入られて、ちょうどことしで芸能生活四十周年というふうに－先ほど梅本議員の質問で四十二年とおっしゃっいましたけども、三十一年からとしますと、四十年ではないかと思います。そういうことで、私の趣旨は、約四十年数余にわたる長い大衆芸能の世界で第一人者として活躍してこられまして、私ども本当に敬意を表する次第でございます。

そこで、特に大衆文芸といいますか、庶民文化といいますか、その点について質問いたしたいんですけれども、今までのそういった芸能界におられて、今回初めて行政の長として、首長の立場として、庶民文化の文化芸術活動をどのように思われているのか、まず最初にお尋ねいたしたいと思います。

◎知事（山田勇君）　私も、知事になりましてからいろんなところへ参りました。改めて府民の皆さんが音楽や演劇や美術などさまざまな分野で個性豊かで多様な芸術文化活動を展開されておられることについて、深く認識をいたしたところでございます。

先日も、知事室開放事業の中で、八尾で府民劇場をやられた女性の方が訪ねてこられまして、非常に郷土芸術というもの、八尾独自の芸を見せたいといって一生懸命頑張っておられる姿など見て、非常に感動、感銘を受けた一人でございます。

◆（鈴木和夫君）　それで、この予算書といいますか、議案から見ますと、特に本府の文化芸術につきましては、特に今回芸術文化の人材を育成する芸術経営大学の設置、それから芸術文化活動の拠点、発信基地である現代芸術文化センター、そして先ほども話が出ておりました上方演芸を後世に残す上方演芸資料館というふうに、文化施設の振興につきましては、大変私はすばらしいことだと思いますけれども、反面こういった文化的な、ソフト面での文化事業につきまして、少しそういった観点からすると薄いのではないかと思うんですけれども、その辺の御見解をお尋ねいたしたいと思います。

◎知事（山田勇君）　そのとおりでございまして、箱物といいましょうか、ハード面だけがやや先行している面があります。いろんな分野で今問題になっておりますソフトの分野が非常に欠けておりますので、我々はそういう中でこれからソフトとは何かということを十分勉強していかなければならないと思っております。

◆（鈴木和夫君）　今回の選挙の公約で、知事におかれましては庶民の政治という、そういうのを強く表に出されました。特に今回の公約の中で大衆芸能の顕彰制度をつくりたい、あるいは劇場、団体等のお年寄りに対する無料鑑賞制度をつくりたいというような、庶民の視点におけるそういった施策を打ち出されましたけれども、大阪府としてそういった文化的な事業についての御見解を改めてお尋ねいたしたいと思います。

◎知事（山田勇君）　これはまだ財政当局、それぞれ部局とまだ話を詰めてはおりませんが、大衆演劇というのはこのままほうっておけばどんどん衰退していって、しまいにはなくなっていく。そういう中にありまして、大衆演劇を維持していこうと思えば、それに対してどういう形で支援していったらいいのか。御老人に対する無料開放する部分だけ援助をしていくのかということでございますが、ただ単に大衆演芸に対する支援施策ということが、果たして議会の皆さんに御理解を頂けるのかどうか、その辺も非常に今苦渋苦慮をしているところでございます。何かいい方法があれば、先生の方からでも御提言を頂きたいと思っているところでございます。

◆（鈴木和夫君）　今の知事の答弁を聞いておりますと、おっしゃった公約の顕彰制度であるとか、それぞれの劇場のそういった無料制度については撤退するというふうに認識していいわけですか。

◎知事（山田勇君）　どうも済みません。言葉足らずといいましょうか、答弁漏れみたいなものになりましたが、

顕彰制度とかそういう予算を余り伴わないものはどんどんとやっていきたいと思っております。先生御承知のとおり、先日の本会議で改革の中川議員の方から、いろんな郷土文化といいましょうか、郷土芸術、岸和田のだんじりの屋根の上で三十年、太鼓たたいて二十年、笛吹いて十年というような人たちを顕彰していこうという御提案がありました。これは大変いいことでございますので、そんなに大きな予算を伴わないものですから、ぜひこういうことは実現していきたいなと思いますし、そういうことで、後退したというふうに今言われたようですが、後退したわけではございません。そういう制度はどんどんとこれからやっていきたいなと思っております。

◆（鈴木和夫君）　今、知事の方から話がありましたけども、特にこの大阪につきましては有名な天神祭り、あるいは岸和田のだんじり祭り、そしてまたきょうもお話が出ておりましたけれども、河内の方の河内音頭のそういったイベントであるとか、そういったそれぞれの郷土における、それぞれの地域の皆さん方が努力をなさって支えておられる多くの文化的なイベントというのはあるわけでございまして、こういったものに対する御支援については、具体的に何か方策かお考えがあるんであれば、お示し願いたいと思います。

◎知事（山田勇君）　文化イベントにつきましては、府下市町村が数多くこういうのは取り組んで、市町村単位で地域住民と盛り上げ、創意工夫をしながら地域の個性あるもの、また歴史、伝統を生かしながらいろんなイベント、祭りを開催しているところでございます。

大阪府としては、大阪府、大阪市、経済団体で組織する財団法人大阪２１世紀協会を通じて地域文化の振興などを促進するイベントや、そういうものに広域的に展開されるイベントに対する支援を行っているところでございます。

◆（鈴木和夫君）　確かに行政からしますと、そういうような支援する施策というのは、各都道府県でもあろうかと思います。山田知事になられて、本当に百六十二万の府民の方が御支援なさった心というのは、庶民の視点での政策というものが一番大事ではないかと思います。今私が申し上げましたのは、ハード面では芸術系大学であるとか上方演芸資料館とかありますけれども、そしてまた２１世紀協会という、そういう形での支援する制度はありますけれども、それは行政が主導した支援施策でありまして、本当にそれぞれの府下での市町村における庶民の文化、芸能を支援するのとは若干違うのではないか。

具体的な例を申し上げますと、知事も御存じと思いますけれども、枚方には渚寄席といいまして、枚方市の職員の方が中心で、本当に素人の方が公民館であるとか学校の教室であるとか、あるいは銭湯の脱衣場を借りて、それぞれの地域で演芸をされているという、そういった本当の庶民の文化事業に対する支援というものが、ノック知事を支援された庶民の心ではないかと思うんですけれども、その辺についての本当の地域地域における庶民の文化についてのお考えはいかがか、伺いたいと思います。

◎知事（山田勇君）　地域住民の主体的な参加のもとで、文化イベントということを一生懸命頑張っておられる方が地域にたくさんおられます。そういう方に対して文化イベントの活性化が図れるよう工夫してまいりたいと思っております。

◆（鈴木和夫君）　そこで、一つの提案でございますけれども、仮称大阪庶民地域文化事業支援制度とかいう形で、そういった本当に草の根で文化事業をなさっておられる団体に、そういった支援するものはないかという、例えば渚寄席につきましても、府あるいは市町村経由でもいいんですけども、たとえ五千円でも一万円でも支援することによって、行政が認めて頂いた事業であるということで励みになろうと思います。

ややもすれば、そういった本当の庶民の活動が草の根に埋もれてしまいますけれども、そういった心が行政ではなくて、山田知事にはわかって頂けるのではないかという思いがありますので、そういった制度をぜひともこの機会につくれないのかお尋ねいたしたいと思います。

◎知事（山田勇君）　仮称でございますが、大阪府民文化事業支援制度等の創設の御提言でございますが、本府におきましては、府下の芸術文化団体が自主的に行う舞台芸術、文芸及び美術など各種芸術文化事業に対しまして、芸術文化事業奨励補助金を交付し、さらに大規模かつ創造的、ユニークな事業につきましては、舞台芸術振興補助金を交付しているところでございます。

また、地域住民の発表、交流の場として開催されている府民文化祭への補助金の交付を行うなど、府民の芸術

文化の普及向上を図るため、各種事業に対して支援を行っているところでございます。
　文化イベントの支援策につきましては、先ほどお答えいたしましたように、財団法人大阪２１世紀協会を通じた支援などを行ってまいりたいと存じますが、先生がおっしゃることを十分我々も理解をし、これから十分検討してまいりたいと思います。
　ただ、ここで府の行政というものがどんどん支援することが、果たしてそのイベントというか文化性というか、地域の芸術性といいましょうか、そういうものに果たしてプラス面ばかりかといえば、お金の面ではプラス面でしょうが、どうしても行政がある程度支援いたしますと、ある程度型にはまったものになってしまうんで、支援策そのものを創意工夫をして支援をする。金は出すけど、口は出さんというようなやり方みたいなものを考えていかないと、どうしても地方自治体の支援をしますと、何かちょっとかた苦しくなるんで、その辺少し考えていきたいなと思っております。

◆（鈴木和夫君）　時間がありませんので、私は山田知事の、府民が主役の手づくり庶民府政の実現という視点からしますと、先ほどおっしゃったように、いろんなそういう団体の助成については２１世紀協会が、これは財団で、あくまでも御堂筋パレードとか大きな形－先ほどおっしゃったように、市町村での広域的な分については市町村の広域文化事業の補助制度というのがありますけれども、そうじゃなくて、庶民のそういった運動を支えるような施策が山田知事ではできるのではないかということを申し上げているわけでございまして、行政主導でなくて、そういうような支えるような、企業でも今メセナといいまして、企業からいろんな民間の文化事業を支える事業が今盛んになってきているわけですから、そういった視点での山田知事の方に要望申し上げたわけでございますので、その辺についての見解が若干違うかもしれませんけれども、それを含めて御答弁願いたいと思います。

◎知事（山田勇君）　大変失礼いたしました。これは地域性ですから、市町村と府とが緊密な連携をとりながら、府が市町村と相談をしながら、そういう地域の文化性、芸術性、そういうものにはこれからどんどんと応援をしていきたいと思います。十分これから検討してまいりたいと思っております。